

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

会社 ニチレキ株式会社  
住所 東京都千代田区九段北4-3-29  
担当部門 技術部  
TEL 03 (3265) 1513  
FAX 03 (3265) 5790  
緊急連絡先 03 (3265) 1513

整理番号 06045

作成 1994 / 9 / 7  
改訂 2022 / 5 / 16

製品名 コールカットK A剤  
推奨用途及び使用上の制限 主用途として舗装用等

## 2. 危険物有害性の要約

### GHS分類:

引火性液体: 区分3  
皮膚腐食性/刺激性: 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分2A  
呼吸器感作性: 区分1  
皮膚感作性: 区分1  
生殖毒性: 区分2  
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(麻酔作用、気道刺激性)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(呼吸器、中枢神経系)  
水生環境有害性 短期(急性): 区分3  
水生環境有害性 長期(慢性): 区分3

上記に記述がない危険有害性については、区分に該当しない、または分類できない。

### GHSラベル要素

#### シンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報: 引火性の高い液体および蒸気  
皮膚刺激  
強い眼への刺激  
吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こす恐れ  
アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
眠気およびめまいの恐れ（麻酔作用）  
呼吸器への刺激の恐れ（気道刺激性）  
長期的ないし反復暴露による臓器の障害（中枢神経系、呼吸器系）  
水生生物に有害  
長期的影響により、水生生物に有害

#### 注意書き

##### 【予防策】

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・粉じん・ミスト・蒸気・スプレーの吸入を避けること。
- ・熱／火花／裸火のような着火源から離して保管すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火災の場合には適切な消火方法をとること。
- ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
- ・取扱後は手をよく洗うこと。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・緊急時を除き、環境への放出を避けること。
- ・保護手袋・衣類・保護眼鏡を着用すること。

##### 【対応】

- ・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- ・眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
- ・漏出物を回収すること。

##### 【保管】

- ・施錠して保管すること。

##### 【廃棄】

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

---

### 3. 組成および成分情報

|             |       |
|-------------|-------|
| 化学物質・混合物の区別 | 混合物   |
| 化学名または一般名   | MMA樹脂 |

| 成分名       | 含有量(%) | 化審法番号    | CAS No. | 国連分類番号       |
|-----------|--------|----------|---------|--------------|
| メタクリル酸メチル | 25～30  | (2)-1036 | 80-62-6 | 1247<br>クラス3 |
| アクリルモノマーA | 10～20  | 非公開      | 非公開     | —            |
| アクリルモノマーB | 0～10   | 非公開      | 非公開     | —            |
| 添加剤       | 30～50  | 非公開      | 非公開     | —            |
| アクリル樹脂    | 15～25  | 非公開      | 非公開     | —            |

#### 4. 応急措置

- 吸入した場合： ・新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。身体を毛布などでおおって安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。  
・呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
- 皮膚に付着した場合： ・すばやく水洗いした後に石けんで汚れを落とし、ぬるま湯で洗い落とす。その後、ハンドクリーム等を塗る。  
・かゆみ、炎症が出た場合は、ただちに医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合： ・大量の水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続け、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合： ・嘔吐が自然に生じたときは、気道への吸入が起きないように頭を横向きにする。意識がある場合、水でよく口の中を洗浄する。吐かせない。
- 急性症状及び遅延性： ・今のところ有用な情報はなし。
- 症状の最も重要な兆候
- 応急処置をする者の保護： ・救助者が有害物に触れないようゴム手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。汚染された衣類や保護具を取り除く。
- 医師に対する特別な注意事項： ・今のところ有用な情報なし。

#### 5. 火災時の措置

- 特有の消火方法： ・火元への燃焼源を断つ。  
・初期の火災には粉末、炭酸ガスを用いる。  
・大規模火災の際は泡消火剤を用い空気を遮断することが有効である。  
・周囲の設備などは散水して冷却する。
- 適切な消火剤： ・霧状の強化液、泡、炭酸ガス、粉末が有効である。
- 使ってはならない消火剤： ・棒状の水は火災を拡大し、危険な場合がある。
- 消化を行う者の保護： ・消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。  
・消火を行う者は、自給式呼吸器具を含めて完全な防護服を着用する。  
・消火は風上から行い、煙・燃焼ガスの吸入を避ける。

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： ・作業の際には消火用保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項： ・下水道、河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよ



|                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 色：                    | 淡黄色                         |
| 臭い：                   | 刺激臭                         |
| 物理的状態が変化する特定温度／温度範囲   |                             |
| 融点／凝固点：               | -48℃                        |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲：        | 100℃                        |
| 可燃性：                  | データなし                       |
| 爆発限界／可燃限界：            | 2.1～12.5                    |
| 引火点：                  | 11℃                         |
| 自然発火点：                | データなし                       |
| 分解温度：                 | データなし                       |
| pH：                   | データなし                       |
| 動粘性率：                 | データなし                       |
| 溶解度：                  | 水に不溶                        |
| n-オクタノール／水分配係数（log値）： | データなし                       |
| 蒸気圧：                  | 3.7kPa                      |
| 密度及び／又は相対密度：          | 1.04～1.08 g/cm <sup>3</sup> |
| 相対ガス密度：               | データなし                       |
| 粒子特性：                 | データなし                       |

## 10. 安定性及び反応性

|             |  |
|-------------|--|
| 化学的安定性：     | <p>使用中に、引火／爆発性の混合気を生じる可能性がある。</p> <p>流動、攪拌などにより静電気が発生し、引火爆発の危険性がある。</p> <p>法規制に従った保管及び取り扱いにおいては安定と考えられる。</p> <p>急激な加熱、直射日光、紫外線照射等により発熱を伴う重合反応を起す。</p> <p>また、不活性ガスを容器に充填させて保管すると重合反応を起す場合もある。</p> <p>酸化剤との接触時に加熱、摩擦により発熱、発火することがある。</p> |
| 反応性：        | 強酸化剤と激しく発火する。重合の可能性はある。  |
| 危険有害反応可能性：  | 現在のところ有用な情報はなし。  |
| 避けるべき条件：    | 高温、日光。高温の物体、火花、裸火、静電気火花。   |
| 避けるべき材料：    | 酸化剤。   |
| 危険有害な分解生成物： | 現在のところ有用な情報はなし。  |
| 混触危険物質：     | 現在のところ有用な情報はなし。  |
| その他：        | 火災時の燃焼により、一酸化炭素、低分子モノマーなどの有害ガスが発生する。   |

## 11. 有害性情報

|                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 急性毒性：             | 情報なし              |
| 皮膚腐食性／刺激性：        | 皮膚刺激性があると思われる。区分2 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： | 区分2 A             |
| 皮膚感作性：            | 区分1               |
| 呼吸器感作性：           | 分類できない            |
| 生殖細胞変異原性：         | 分類できない            |
| 発がん性：             | 分類できない            |
| 生殖毒性：             | 区分2               |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露）：  | 区分3（麻酔作用、気道刺激性）   |

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 区分1（呼吸器、中枢神経系）  
水生環境有害性 短期（急性）： 区分3  
水生環境有害性 長期（慢性）： 区分3

メタクリル酸メチルとして

急性毒性： 吸入：LC50（ラット）：3,750ppm  
経口：LD50（ラット）：7,900mg/kg

---

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性： 現在のところ有用な情報はなし。  
残留性： 現在のところ有用な情報はなし。  
分解性： 現在のところ有用な情報はなし。  
生体蓄積性： 現在のところ有用な情報はなし。  
土壌中の移動性： 現在のところ有用な情報はなし。  
オゾン層への有害性： 現在のところ有用な情報はなし。

---

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び都道府県条例等に基づき焼却するか、許可を受けた処理業者に委託する。
- ・海、河川、湖やその付近、排水溝に投棄してはならない。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。
- ・海、河川、湖やその付近、排水溝に投棄してはならない。

---

## 1 4. 輸送上の注意

下記、輸送に関する国内法規制に該当するため、規定に従った容器、積載方法により運送する。

国際規制

海上： I M O 規定に従う。  
航空： I C A O / I A T A の規定に従う。  
国連番号： 1 8 6 6  
国連分類： クラス 3  
品名： 樹脂液

国内規制

陸上： 消防法 危険物第4類第一石油類（非水溶性液体：危険等級Ⅱ）  
海上： 船舶安全法の規定に従う。  
航空： 航空法の規定に従う。  
国連番号： 1 8 6 6  
国連分類： クラス 3  
品名： 樹脂液

安全対策および条件：漏洩しないように注意して運送する。

---

## 1 5. 適用法規

消防法： 危険物第4類第一石油類（非水溶）  
労働安全衛生法： 危険物・引火性の物  
通知対象物質

|            |                      |
|------------|----------------------|
| 大気汚染防止法：   | 有害大気汚染物質<br>揮発性有機化合物 |
| 海洋汚染防止法：   | 有害液体物質（Y類物質）         |
| 船舶安全法：     | 引火性液体類               |
| 航空法：       | 引火性液体                |
| 港則法：       | 危険物・引火性液体類           |
| 道路法：       | 車両の通行制限              |
| P R T R 法： | 第一種指定化学物質            |
| 労働基準法：     | 疾病化学物質<br>感作性を有するもの  |

## 16. その他の情報

### 引用文献

- |  |            |
|--|------------|
| ・ 14102の化学商品                             | 化学工業日報者    |
| ・ 化学物質の危険，有害便覧                           | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 知っておきたい職場の化学物質                         | 中央労働災害防止協会 |
| ・ GHS対応による混合物（化学物質）のMSDS作成手法の研修テキスト（改訂版） | 中央労働災害防止協会 |
| ・ 製品安全データシートの作成指針                        | 日本化学工業協会   |

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。